

10/24
木
10:00~17:00
会場
明治記念館(東京・信濃町)

[ホスピス住宅]の事業特性と開発・運営・投資の留意点

講師プロフィール

細見 真司

グローム・ホールディングス株
執行役員

ほそみ・しんじ●2006年新生銀
行に入行し、日本の銀行として初の有料老人ホームの不動産流動化を行なう。10年にヘルスケアファイナンス部を創設し、J-REITでのヘルスケアアート立上げに参画。14年よりデロイトトーマツファイナンシャルアドバイザリー合同会社にて、国土交通省の「ヘルスケアアートガイドライン検討委員会」事務局受託。ヘルスケアアセットの証券化アドバイザリー、介護・医療セクターのM&Aアドバイザリー、およびアジア進出支援等を行なう。その後、不動産開発会社にてホスピス住宅の開発を推進。23年9月より現職。主な著書に『ヘルスケア施設の投資リスク・事業評価資料集』『病院アセットの投資判断・事業評価資料集』(共に総合ユニコム刊)がある。



清原 達觀

(株)リベルケア
代表取締役

きよはら・たつみ●岐阜県、愛知
県の病院で看護師として11年勤務。2015年に「脳卒中リハビリテーション看護認定看護師」資格取得。17年(株)リベルケアを設立し、代表取締役に就任。24年4月時点での訪問看護やホスピス対応型住宅等の介護事業所を10拠点開設。全国で新規のホスピス住宅の開発を進めている。グローム・ホールディングス子会社とのコンサルティング契約を締結するほか、複数の有料老人ホーム運営法人のアドバイザーを務める。



永井 孝一

(株)リヒト
代表取締役

ながい・こういち●総合不動産
会社に勤務後、ハウスメーカーのエス・バイ・エル
株にて不動産開発事業をリーダーとして手掛ける。
株アルデプロ千葉支店長および子会社のオーパス株取締役を経て、2011年に長谷川介護サービス株(現・HITOWAケアサービス株)施設開発部に入社。15年(株)リヒトを設立して代表取締役に就任。23年に(株)リベルケア、グローム・マネジメント株とホスピス住宅施設開発アドバイザー(顧問)として業務委託契約を締結。ヘルスケア分野の居住系施設の開発実績は30施設を数え、複数のホスピス住宅開発にも現在携わっている。



ホスピス対応型住宅「リベル京都南」の概要
開設時期 : 2021年4月
所在地 : 京都府八幡市
建物構造 : RC造4階建て
居室数 : 56床(18m²)
併設事業所 : 訪問看護、訪問介護、重度訪問介護

PROGRAM

10:00~12:00 <事業性評価>

I. ホスピス住宅(終末期医療)の事業特性と投資評価

- ホスピス住宅のニーズと背景
- ホスピス住宅のビジネスモデル
- 収益構造と賃料負担力の分析
- ホスピス住宅開発のメリットとリスク分析
- ホスピス住宅の投資適格性と今後の課題
- 運営のポイント

[講師] グローム・ホールディングス株 執行役員 細見 真司

13:00~14:10 <事例研究>

II. ホスピス対応型住宅「リベル京都南」の開発・運営の実際

- 訪問看護を展開する(株)リベルケアの事業内容
- 住宅型有料老人ホームとしてホスピス対応型住宅を展開した狙い
・既存施設を買収した目的
・ホスピス転換に適したM&A案件のポイント
- 開設後の入居状況と運営の課題
・入居状況(入居者数の推移、要介護度、売上状況)
・運営の課題(人材採用、訪問プランの最適化、設備面)

[講師] (株)リベルケア 代表取締役 清原 達觀

14:20~15:50 <開発手法>

III. ホスピス住宅の企画・設計にあたっての留意点

- ホスピス住宅と有料老人ホームの違い
- ホスピス住宅の立地要件
- 有料老人ホームとの面積比較
- コンパクト化を考慮したゾーニング計画と空間の考え方
日常生活空間／管理部門空間／サービス業務空間／共用生活空間／屋外施設空間

[講師] (株)リヒト 代表取締役 永井 孝一

16:00~17:00 <パネルディスカッション>

IV. ホスピス住宅事業を成功させるポイントは何か

- 事業展開にあたっての留意点
(適切な事業主体とは)
- 運営上の留意点
(入居者募集方法、看護師等の確保)
- 投資にあたっての留意点
- ホスピス住宅の今後の展望
- 質疑応答

[コーディネーター] グローム・ホールディングス株 執行役員 細見 真司
[パネリスト] (株)リベルケア 代表取締役 清原 達觀
(株)リヒト 代表取締役 永井 孝一

前回セミナー(2024年6月開催)参加者の主な声

収益構造や課題などホスピス住宅事業の“肝”を開示いただいた(民間介護)／実務・実態に沿った具体的な話で大変参考になった(電力会社)／ホスピス住宅運営の実情がよく理解できた(法律事務所)／ホスピス住宅の開発・投資に関してノウハウ満載で満足した(不動産開発)／投資・開発から営業・オペレーションまで多くを学べて有意義であった(個人参加)／オペレーター側の戦略が理解でき、とても有益だった(不動産鑑定)／さまざまな角度から話を聞くことができ、非常に参考になった(民間介護)／実際に運営している方の話は説得力がある(無記名)／パネルディスカッションがよかったです(民間介護)

お問い合わせ先

綜合ユニコム(株)企画事業部

〒104-0031

東京都中央区京橋2-10-2

ぬ利彦ビル南館6階

☎ 03-3563-0099(直通)

ダイレクトメールの送付先変更・中止は、お手数ですが、封筒ラベルにご要件を記入の上、弊社企画事業部(FAX:03-3564-2560)迄ご連絡ください。

大好評セミナーを「一日型」に
バージョンアップして追加開催

がん末期や難病等の“看取り難民”に必要不可欠な施設として
需要が拡大するホスピス住宅。診療報酬と介護報酬の
ダブルで収入が得られる収益性の高さでも注目!

[ホスピス住宅]の 事業特性と 開発・運営・投資の留意点

ホスピス対応型住宅「リベル京都南」の運営実態

開発・運営・投資の各分野に精通する
実務家3名が成功のポイントを明かす

10/24
木

10:00~17:00

会場

明治記念館(東京・信濃町)

講師

細見 真司氏

グローム・ホールディングス㈱

清原 達觀氏

株式会社リベルケア

永井 孝一氏

株式会社リヒト

孤 独死や看取り難民の増加が社会問題化するなか、[ホスピス住宅]の存在感が高まっています。病院や介護施設で終末期を過ごす高齢者でも、最期を迎える場所はやはり自宅を望む方が多いことから、「病院の安心感」と「自宅の快適さ」の両方のよさを合わせもつホスピス住宅へのニーズが増大しているためです。

しかも事業特性として、入居賃料に加えて診療報酬と介護報酬のダブルで保険収入を得ることが可能なので、利益構造はきわめて高いことが特筆されます。ただ、スキルの高い看護師を一定数確保することや終末期医療の入居者をいかに募集するかなど運営上の課題も少なくなく、さらにダブルでの保険収入に対して規制に入る可能性も否定できません。

とはいっても、今後増加する看取り難民の受け皿として社会的にも必要不可欠な施設であり、高齢者住宅のなかで確かなポジションを占めてくることは間違いないでしょう。

本セミナーでは、収益性の高さゆえに注目されるホスピス住宅について、その事業特性や事業化にあたっての検討事項、設計・開発ならびに運営上の留意点、さらに投資適格性やリスク分析まで、実際にホスピス住宅の開発・運営・投資評価のそれぞれに携わっておられる実務家3名にご登壇いただき、ディスカッションを含む4部構成にて探ってまいります。

ホスピス住宅の開発・運営・投資に関心がある高齢者住宅・介護事業者、医療機関、不動産開発・投融資に携わる皆さまのご参加を強くお勧めいたします。

FAX用 参加申込書 [ホスピス住宅]の事業特性と開発・運営・投資の留意点

会社名(フリガナ)

貴社業種

振込予定日(月 日)
当日現金支払い希望□
ご担当者名()

所在地(〒)

TEL () FAX ()

出席者① 氏名(フリガナ)

所属部署・役職名

E-MAIL

出席者② 氏名(フリガナ)

所属部署・役職名

E-MAIL